

平成 26 年度 事業報告

社会福祉法人富山城南会

1. はじめに

平成 26 年度は第 5 期介護報酬改定の最終年となり、各種加算要件の見直し等、各施設とも収入確保に努めてきたことが奏功し、既存施設は収入面では横這い基調となった。その中で、前期 7 月よりリニューアルオープンしたしみずまち敬寿苑が今期は年度当初よりフル稼働となることから前年対比大幅な増収増益となり、結果、法人全体としての業績を底上げした。事業活動収入 3,567 百万円（前期比+290 百万円）、同支出 3,067 百万円（前期比+235 百万円）、同収支差額 500 百万円（前期比 55 百万円）と増収減益となる。

2. 老人福祉施設、介護老人保健施設の運営

前述の通りしみずまち敬寿苑は今期より短期入所、通所介護は通年でフル稼働となり、増収分 114 百万円が法人全体の増収に大きく寄与した。その他の老人福祉施設系は経費節減の効果もあり、総じて収支は堅調であった。しかしながら老人保健施設においては入所率の向上と在宅復帰率の向上との狭間で難しい施設運営を強いられ、減収減益となった。

3. 幼児、児童福祉施設の運営

婦中もなみ保育園、光陽もなみ保育園とも、職員の確保が困難な中、安定した運営ができた。城南もなみ学園は幼稚園、保育園の両立、園児の確保に苦心した 1 年であった。後半は新年度に向けて幼保連携型認定こども園の認可準備に注力をした。今年度より、3 園とも常勤看護師を設置できるようになり、園児への対応力向上はもちろん、保育士の負担軽減にも繋がった。放課後児童クラブは 2 施設とも堅調であった。

4. その他

今年度は感染症対策に注力したため、例年のような流行は未然に防ぐことができた。

各職種とも、とりわけ介護職員の確保は大きな課題となった。新卒、中途採用を問わず、魅力ある法人、職場を作り、様々な手法を通じて、訴求できるようにしていかなければならない。